あなたのそばで夢みる数字新聞

特集「アート」

ふと、美術館に足を運んでみようかな、という気分になるこの季節。私たちの心を日常から解き放って、豊かにしてくれる「アート」について取り上げてみました！鑑賞する楽しさもあるし、表現する楽しさもある。そのきっかけは、思いのほか身近なところにありそうです。

インタビュー

書道家
武田双雲さん

湘南を拠点に、さまざまなメディアで幅広く活動されている双雲さん。話す言葉や表情からも、ポジティブなエネルギーが溢れていました。

湘南での生活はいかがですか。

一言で言うと、最高！住んでみてわかったんですが、茅ヶ崎や江ノ島、逗子に葉山など、場所によって海に個性がある。そういう湘南の海が好きなんです。あと、観光地だから、電車から降りてくる人がみんな笑顔(笑)。そして、古くから住んでいる素敵な年配の方や、都会からスローライフやエコライフなんかを求めて移り住む若い人など、湘南はそういう良いバランスが出来上がっているとも感じます。

書は、3歳の頃から書道家であるお母様に叩き込まれたそうですね。

でも書道家になろうなんて、考えてもいなかったですよ。成功体験もなかったし、自分は普通だなあ、と思いながら生きてた。変わったのは25歳のとき。社会人になってから2年ぶりに実家に帰って、あらためて母ちゃんの書を見たときにウワーって鳥肌が立った。インターネットが普及し始めたころで、世の中から筆文字が消えていた。だから逆に筆文字はこれから伸びる！と思ったのと、もしかしたらこんな自分でも何かできるかもしれない、というイメージが湧いてきて。感動と、強烈なワクワク感。鼻血が出そうでした。

活動を通じて、子どもと触れる機会が多いですね。

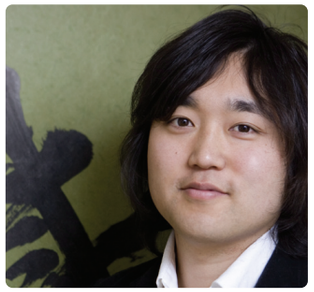
僕は子どもたちを「こいつ、天才じゃないか」って目で見るんです。僕から見ると天才の宝庫。みんなすごい芽をもってる。だから、社会に順応できるかどうかという不安ではなく、どの土と、どの水をあげたらこの花は咲くんだろう？と考えて接したい。夢は色々あるほうが楽しい。チャンスを見逃さず、得意分野を伸ばす環境を作ってあげられる大人が増えるといいですよね。

小さい頃に触れるアートは、色々な影響を持ちそうですね。

無目的なところがアートの良さですよね。結果とか、答えが用意されているわけじゃない。そういう世界の中で刺激を受ければ、感性って必ず伸びる。気張ってなにかを見せようっていうより、「気持ちいい」とか「清々しい」とか、自然な気持ちの流れに沿って、アートに触れる機会を作れるのがいいと思います。

双雲さんから子どもたちへメッセージをお願いします。

「君はスゲーよ！」。自分が持ってる特徴をプラスとかマイナスで考えるんじゃなく、最大限に生かしてほしい。「だからこそできること」って僕は言ってます。「無口だからこそできること」も「体が小さいからこそできること」も、必ずある。「ネガティブだからこそできること」なんて、最強にポジティブかもしれないですよね(笑)



たけだ・そううん　1975年熊本市生まれ。3歳から母である書家・武田双葉に師事。2001年、会社員を辞め、本格的に書道家の道を志す。ストリート書道やパフォーマンス書道などで注目を浴び、数多くのアーティストとのコラボレーションが話題に。現在は数多くの題字を手掛けるほか、創作や書道教室での指導も続けている。『たのしか』『上機嫌のすすめ』など作品集、著書多数。公式サイト：www.souun.net

世界中に1つだけアートも出会い♥

今回ポスターでとりあげた数字13は、レオナルド・ダ・ヴィンチによるものと断定されている絵画の数です。『モナ・リザ』や『聖母子像』など、美術史を語る上で欠かせない、あの、天才芸術家の真作がそれしかないなんて、意外に思いませんか。そのダ・ヴィンチと並び評される彫刻家ミケランジェロも、現存している彫刻はわずか4点。芸術家たちが命を削り、魂を込めてつくりあげた本物を目にすることが、いかに貴重な機会であるかを感じずにはいられません。アートは今や、限られた人の楽しみではなく、誰もが身近に触れられるもの。ポスターの撮影場所にもなった川崎市の「岡本太郎美術館」など、神奈川県には趣向の違うおよそ16の美術館が点在しています。アートをたずねてまわる、そんな秋の週末もいいかもしれません。

おしえて！夢みる値段

このコーナーでは、特集にまつわる「夢みる値段」を、ちょっと詳しくご紹介します！

［185,000円］

今回、ポスターで取り上げているのは、カメラ好きなら一度は憧れる、ライカの中古の値段です。ちなみに、ポスターのライカは本体がバルナック型Ⅲf、レンズがズミクロンの組み合わせで、じつは、スタッフが祖父から受け継いだ約60年前のものだそう。高額なものでも、大切に使えば世代を超えて愛用できるって、素敵ですね。

さらに、たとえばこんな値段

［1,575円］

美術館へ足をのばしたら、ぜひ、併設のミュージアムショップものぞいてみてはいかがですか。ふつうのお店には置いていない、オリジナルのグッズが満載！たとえば、「岡本太郎美術館」のミュージアムショップで販売されている『ミニチュア 太陽の塔』は、このお値段。白と銀があって、高さ約15cm。さりげなく存在感のある大きさで、置けばたちまち、あの懐かしの万博の雰囲気に包まれます。

お問い合わせ：川崎市 岡本太郎美術館　http://www.taromuseum.jp/

私たちの心に、日常生活の中だけでは得られない潤いをもたらしてくれるアート。人生に欠かすことのできないおかねのことも一緒に考えながら、アートに触れる素敵な日々を送れたら素晴らしいですね。

アートで街が変わる黄金町へ行ってみよう！

いま、横浜・黄金町エリアが「アートによるまちづくり」の活動で全国から注目を集めているのをご存知ですか？平成20年に行われたアートイベント『黄金町バザール』からはじまったこの動きは、地元の人たちやアーティストを中心に、企業、大学、さらには行政も巻き込み、現在では新しい入居者の獲得や地域との連携など、日常的なまちづくりにまで広がっています。今年は10月11日(月・祝)まで開催！期間中は、アーティストが開発した商品や地域ブランドを集めた限定の物産店も。行けば、黄金町の新しい空気を味わうことができるはず。

Photo：Yasuyuki Kasagi

それゆけ！撮影隊

今回モデルになってくれたのは、横浜市都筑区に住む沙耶さんです。友達を撮影するのが大好き！という中学1年生。クリスマスのプレゼントにもデジカメを買ってもらったそうですが、「いつの間にか家族のものになっちゃったんです・・・」

表紙と店頭ポスターの撮影：本城直季

1978年生まれ。写真家。ミニチュアのように撮影する独自の手法で知られる。写真集『small planet』で第32回「木村伊兵衛写真賞」受賞。

バックナンバーを横浜銀行ホームページで公開中！トップ画面左下のバナーをクリック！